



自立課題と個別課題について

日々の実践において、児童生徒の実態に合わせた課題設定は重要です。
今回は、「自立課題」と「個別課題」の特徴や教材の使い分けについてご紹介します。

自立課題学習（自分一人で）



【特徴】

TEACCHプログラムに基づいて、始めから終わりまで、自分一人で行う活動です。

目で見て理解できる「ワークシステム（①何をするか ②どれくらいするか ③どうなったら終わりか ④終わったら何があるか）」を活用します。

課題自体は、始めから終わりまで一人でできるくらいの難易度が適しています。自分一人でやったという達成感が自信につながります。

個別課題学習（教師と一緒に）



【特徴】

教師とマンツーマンに近いかたちで行うため、新しい課題や未習得の技能について学ぶのに適しています。

教師にとっても、課題のやりかたを丁寧に伝えやすく、子どもの反応や達成度が分かりやすいです。

また、「待つ」「指示に応じる」といった人に応じる姿勢を学びやすくなります。コミュニケーションや粗大運動など、その子の課題や目標に応じた活動を設定します。

同じ教材での使い分けアイデア（例：棒さし）



自立課題として使う場合、見本やトレイをあらかじめセットしておきます。視覚的指示（課題の量や順番）を手がかりに課題に取り組み、自ら課題を終了トレイに入れ、次の課題に移行します。



個別課題として使う場合、指導者が「赤色」「四角」などと言葉や指さして指示を出します。指導者の手元や指示に注目し、指示が出てから指定されたキューブを刺すという、教師の指示に応じる姿勢ややり取りを学びます。

💡 まとめ 💡

自立活動の授業づくりにおいて最も重要なのは、丁寧な実態把握と、それに基づく適切な目標設定です。児童生徒の現在の学習段階や目標に合わせて、「個別の課題」と「自立課題」を効果的に使い分けていきましょう。

例えば、未習得の新しい課題に取り組むときは、じっくり学べる「個別の課題」から始め、課題に慣れてきたら、自分一人で最後までやり遂げる「自立課題」で自信を育んでいきます。この二つのアプローチを子どもの歩みに合わせて組み合わせることで、子どもたちの「できた!」につながる授業ができるといいですね。

研修会の報告

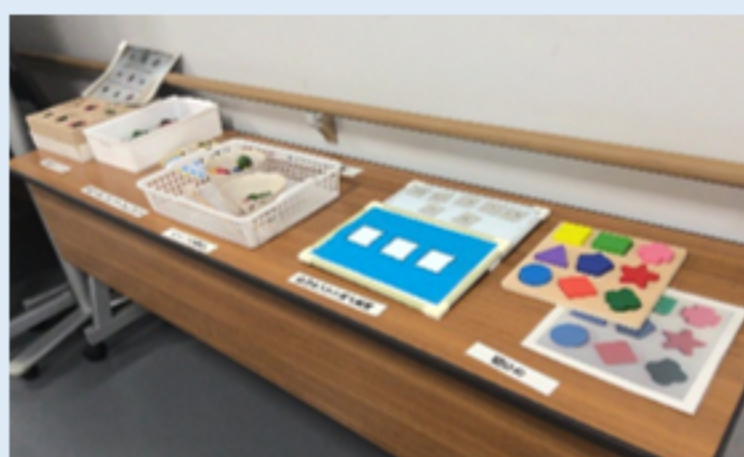


7/1 自立活動研修会「自立課題学習と個別課題学習」

7/1の研修会では、本校職員が講師を務め「自立課題学習と個別課題学習」をテーマに研修しました。

教材のアイデアや指導の例を実践映像と一緒に分かりやすく紹介がありました。また、一斉指導であっても課題の内容や難易度を調整することで、個に応じた指導が可能であることが分かりました。

児童生徒の実態に合った適切な目標を設定し、その目標を常に意識しながら指導を行うことの大切さを改めて学ぶことができました。研修後には、教材・教具が展示され、実際に触ったり、扱ったりすることで、教材のアイデアを得ることができ、充実した時間となりました。



7/29 自立活動研修会「自立課題の作成と活用のポイント」

7/29の研修会では、社会福祉法人大府福祉会「たくと大府」の施設長の林大輔氏を講師にお迎えし、「自立課題の作成と活用のポイント」について学びました。自立課題を作成する際には、児童生徒の実態を丁寧にアセスメントすることで、より一人一人に合った教材を作ることができるというお話がありました。

講義の後半には身近な児童生徒を思い浮かべ、自立課題スキル評価シートでアセスメントをしたり、実態に合った課題を作成したりする活動もありました。実際にアセスメントをし、課題作成することで、身近な児童生徒にどのように活用できるかなどの具体的なイメージが浮かび、有意義な時間となりました。

